

今回のお知らせ

- 原子力総合防災訓練が実施されました
- 「東京電力柏崎レジリエンスセンター」に関する学生の皆さまとの協働検討について

原子力総合防災訓練が実施されました

原子力総合防災訓練について

- 原子力総合防災訓練は、原子力災害対策特別措置法に基づき、年に1回、国が主催し、全国の原子力発電所立地地域から1ヵ所を選定して実施される訓練です。国、県、市町村、住民の皆さま、原子力事業者が一体となって、原子力災害発生時の対応体制を検証することなどを目的に実施されます。
- 本年は、10月27～29日にかけて、柏崎刈羽原子力発電所で重大事故が発生したことを想定して、原子力総合防災訓練が実施されました。
- 今回の訓練では、新潟県内30市町村や内閣府、原子力規制庁、警察や消防、当社など119機関が参加しました。発電所内での緊急時対応のほか、国や県の原子力災害対策本部運営、自治体などへの情報伝達、自衛隊や海上保安庁による住民の皆さまの避難、車両や衣類への放射性物質の付着の検査・除染、避難経路所の運営など、新潟県内全域において、さまざまな訓練が実施されました。

県内で実施された訓練について

情報伝達訓練

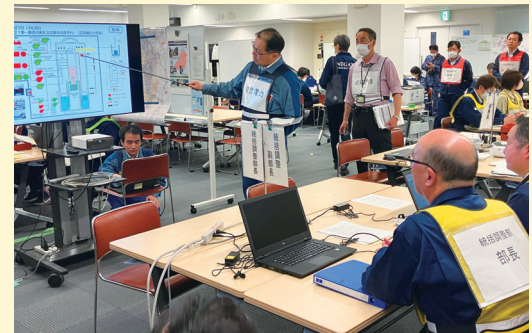
国や県、各市町村などの災害対策本部において、原子力発電所の状況について情報共有し、対策の意思決定を行う訓練が実施されました



発電所の緊急時対策本部の様子



オフサイトセンター（柏崎市）での訓練の様子



県の災害対策本部の様子

社会福祉施設入所者の避難支援訓練

車椅子を利用される方などの避難支援を行うため、福祉車両への乗降支援訓練を行いました



車椅子利用者の避難支援訓練の様子

住民の皆さまの避難訓練

避難時に放射性物質が車両や衣類などに付着していないか検査を行った後、避難経路所で自身の避難先を確認するといった、避難に関する一連の動きを確認する訓練が実施されました



避難車両を測定する様子



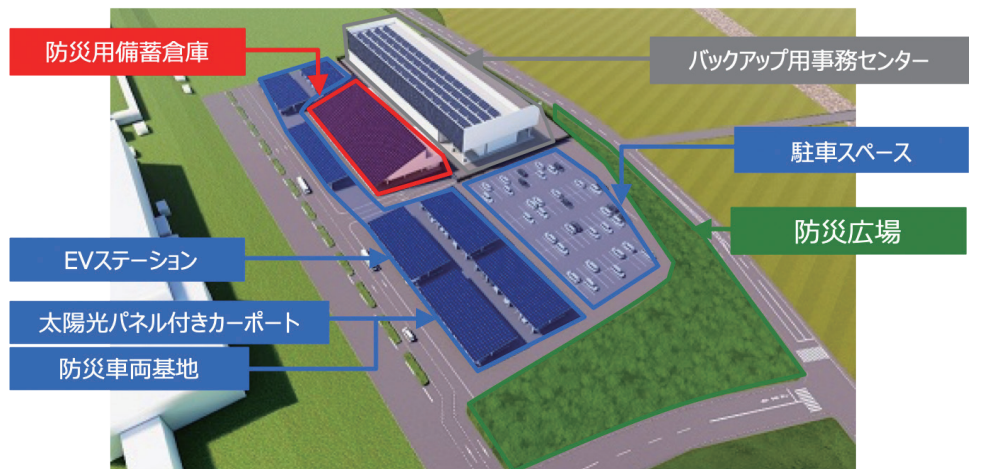
避難される方の衣類を測定する様子

今後も、原子力事業者として繰り返し訓練を実施するとともに、国、自治体と連携した原子力防災訓練に参加し、原子力災害発生時の対応力向上と避難計画の実効性向上に努めてまいります

「東京電力柏崎レジリエンスセンター」に関する学生の皆さまとの協働検討について

「東京電力柏崎レジリエンスセンター」について

- 近年激甚化している災害への備えや対応力の向上のため、東京電力グループの事業継続に必要なバックアップ用事務センターを、首都圏と同時に被災するリスクの少ない柏崎市内に2026年に設置する予定です。
- 当設備はバックアップ用事務センターのほか、防災用備蓄倉庫、EVステーション、太陽光パネル付きカーポート、防災車両基地、防災広場などで構成されます。
- このうち防災広場について、災害時はもとより日常でも地域の皆さまにご利用いただけるよう、柏崎市内の新潟工科大学の学生の皆さまと、デザインや活用方法について協働で検討を進めています。



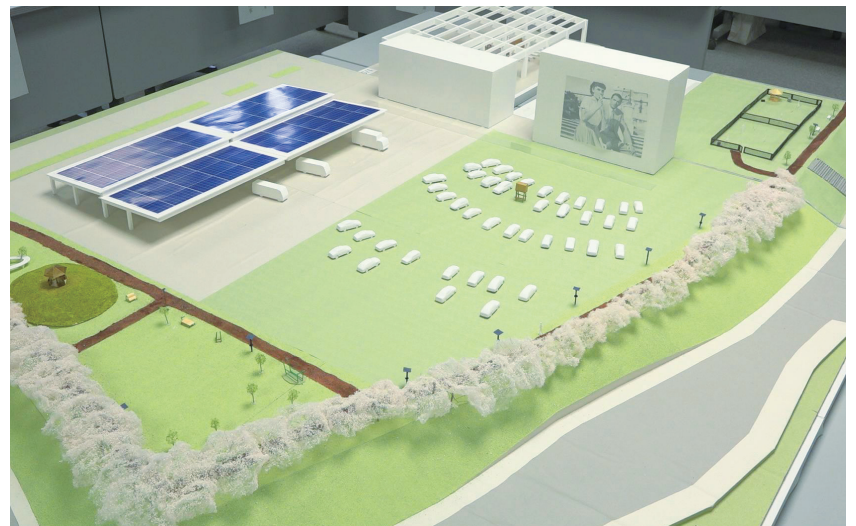
「東京電力柏崎レジリエンスセンター」建設イメージ

防災広場に関する新潟工科大学の学生の皆さまとの協働検討

- 本年9月28日に、新潟工科大学において防災広場のデザイン発表会が開催されました。学生の皆さまからは、「**Feel safe & Health 安心と健康の防災広場**」をコンセプトに、地域の皆さまに災害時だけでなく日常でもご利用いただけるよう、独創的なアイデアがたくさん盛り込まれた提案をいただきました。
- 具体的には、運動不足解消のために、ウォーキングコースやトレーニング器具を設置したり、炊事場やドライブインシアターを設けたりするなど、地域の皆さまに親しまれるデザインを、模型を使って分かりやすく発表していただきました。
- 今後は、防災広場の地域イベントでの活用など、運用面で学生の皆さまと検討を進めてまいります。



学生の皆さまによる発表の様子



防災広場デザインの模型

引き続き、地域の防災力向上やにぎわいの創出を目指して、新潟工科大学の学生の皆さまと「東京電力柏崎レジリエンスセンター」について協働で検討を進めてまいります